

教員向け e ラーニングコンテンツ作成支援のあり方と今後の課題—Technology Push から Requirement Pull へ

加藤由香里, 江木啓訓†, 梅田倫弘

(東京農工大学 大学教育センター, †総合情報メディアセンター)

1. 東京農工大学での e ラーニング開発

東京農工大学では, 2003 年度から工科系大学教育連携協議会, および獣医学系教育 IT コンソーシアムを通じて, 遠隔教育による大学院単位互換制度を進めてきた。さらに, 2005 年度より, 文部科学省「教育支援事業」として, 本学が提案した「大学院教育の質的向上と機能の拡大」プロジェクトが認められ, 講義コンテンツ収録室および防音室の整備, キャンパス間遠隔講義システムの導入などが積極的に行われている。

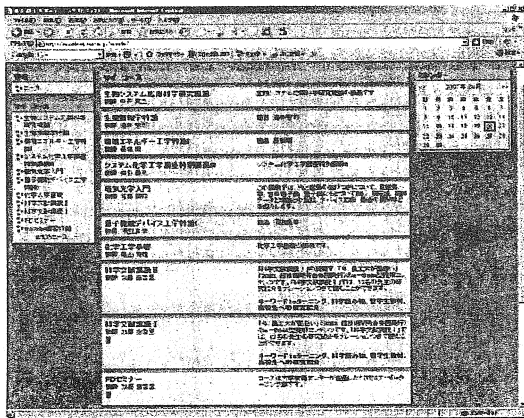


図1 e ラーニングプロジェクト TOP 画面

現在, これらの設備・機材を用いた e ラーニングコンテンツの作成および配信が学内組織(総合情報メディアセンター)の支援のもとで可能となっており, 多くのコンテンツは, 図1に示すように, 学内の LMS (Learning Management System) を利用して構築されている (Moodle, <http://moodle.elp.tuat.ac.jp/moodle/login/index.php>). 2007 年は, オンデマンド電子教材も含めて 16 科目が配信されている。

2. 東京農工大学における e ラーニング推進活動の展開

東京農工大学では, 2004 年に大学教育センターが発足し, 教育評価・FD 部門を中心に新任研修, 教育力向上セミナー, リーフレット発行などの活動が行ってきた。e ラーニング作成支援においても, 総合情報メディアセンターと大学教育センターの連携のもとで, 2007 年には e ラーニング作成者を対象とした入門セミナー, および情報通信技術の利用方法を広く紹介する連続セミナー (e Week) などを展開している。

また, 集合型研修に参加できない現職教員に対しても, FD セミナーの e ラーニング化を行っている。このような取り組みは, 初任者から経験者まで多様な大学教員に対する FD プログラムを充実させるという意味においても, 今後ますます重要となってくると思われる。大学教育センターの FD 向けコンテンツは, 学生向け LMS (<http://moodle.elp.tuat.ac.jp/moodle/login/index.php>) と同じプラットフォーム上に構築され, 学内からのアクセスが可能である。

3. e ラーニング作成支援セミナーの実施状況

e ラーニング入門と題して, 教職員向け FD セミナーを 2007 年 9 月 25 日と 27 日の 2 日にわたり, 計 3 回実施した。1 回あたり 3 時間半で, 初級編 2 回, 中級編 1 回の計 3 回実施し, 参加者は延べ 25 名であった。

セミナー実施により、従来の集合型研修と同じく参加者の確保が難しいこと、教員の ICT スキルのばらつきが大きいことなどの企画・運営上の問題点が認識された。一方、参加者が研修の効果を実感し、同僚へ参加を呼びかけるなどの波及効果もあった。

3.1. eラーニング作成支援セミナーのアンケート調査

セミナーは、前半を教育における eラーニング利用に関する情報提供とし、後半は実際にマニュアルを見ながら、PC を操作する実習とした。セミナー実施後に (1)わかりやすさ、(2)興味・関心、(3)有用性、(4)資料の適切さ、(5)実施時期、(6)広報などの項目についてアンケート調査 (5 件法) を行い、9 名から回答を得た。アンケート項目のうち、(1)わかりやすさ、(2)興味・関心、(3)有用性について講義と実習別に評価をまとめた。

3.2 講義の評価

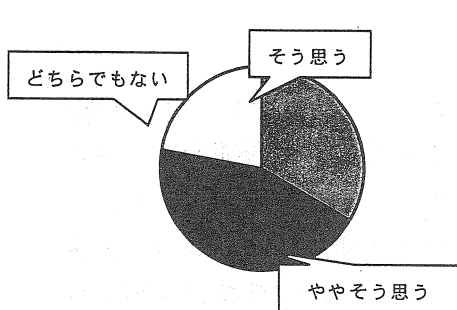


図 2 わかりやすさの評価

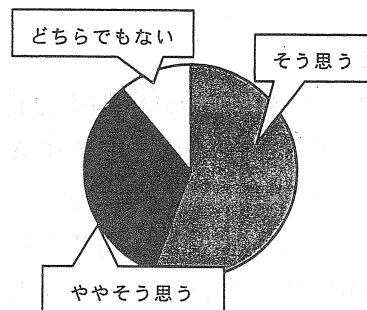


図 3 興味・関心の評価

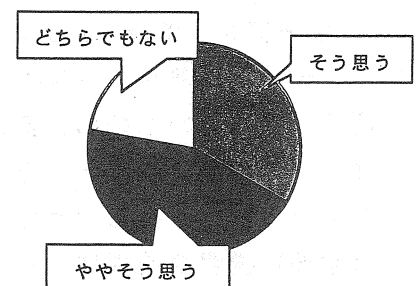


図 4 有用性の評価

3.2 実習の評価

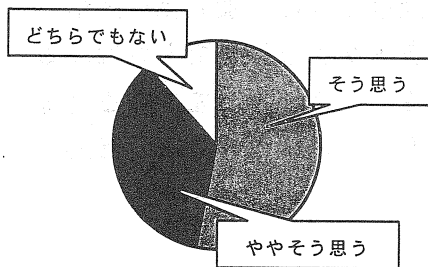


図 5 わかりやすさの評価

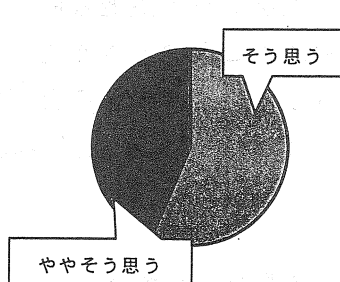


図 6 興味・関心の評価

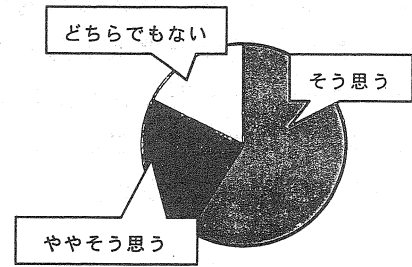


図 7 有用性の評価

4. おわりに

セミナー参加者へのアンケート調査 (記述式) からは、標準的な eラーニング作成方法を学ぶより、自らの教育目的に合致した ICT 活用方法を考えるセミナーを希望していることが明らかになった。例えば、自らの科目の特性や目的に合わせて、様々な情報ツールの利用が可能であること、それらを取り入れた教授法について個別に相談したいなどの感想が寄せられた。今後、東京農工大学大学教育センターでは、総合情報メディアセンターと連携し、学内教員の合意形成 (Requirement Pull) に基づいた自発的 FD へ向けてのボトムアップ支援をすすめていきたい。